

3  
エズラ書  
聖徒伝 195

# 信仰の宮なる 私の礎を覚えよう

エズラ書4～6章

神殿建設の中断・再開・完成

Shikaoichurch.com

# アウトライン

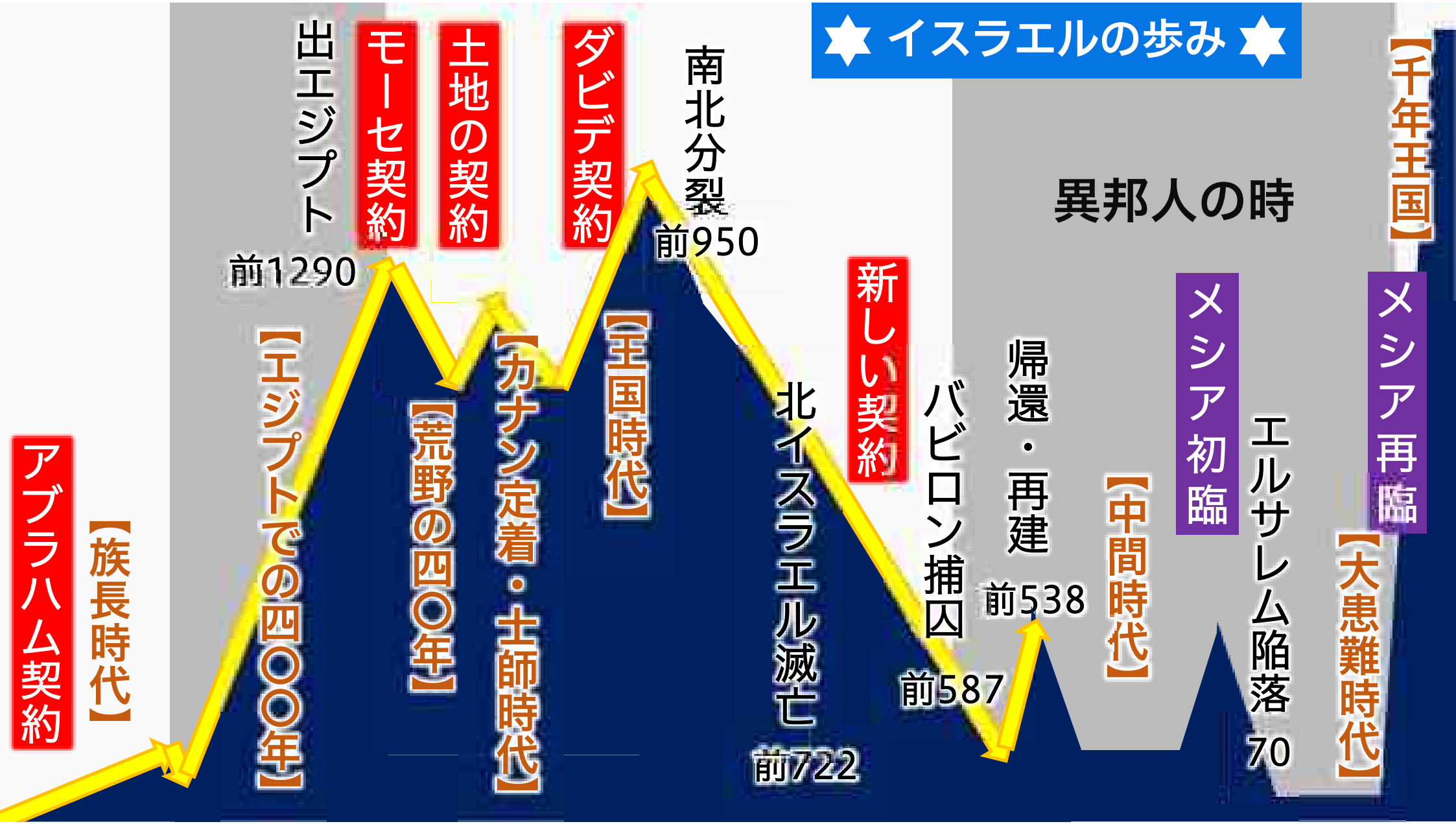
- 0. イントロダクション
- I. エルサレム復興・妨害の歴史 4章
- II. 二人の預言者 5章
- III. 神殿建設の再開・完成 6章
- IV. まとめと適用

私たちの信仰生活の礎を確認しよう



ペルシアの都の門

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

モーセ契約

【荒野の四〇年】

土地の契約

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

【王国時代】

南北分裂

北イスラエル滅亡

前950

新しい契約

バビロン捕囚

前587

帰還・再建

前538

【中間時代】

エルサレム陥落

70

メシア初臨

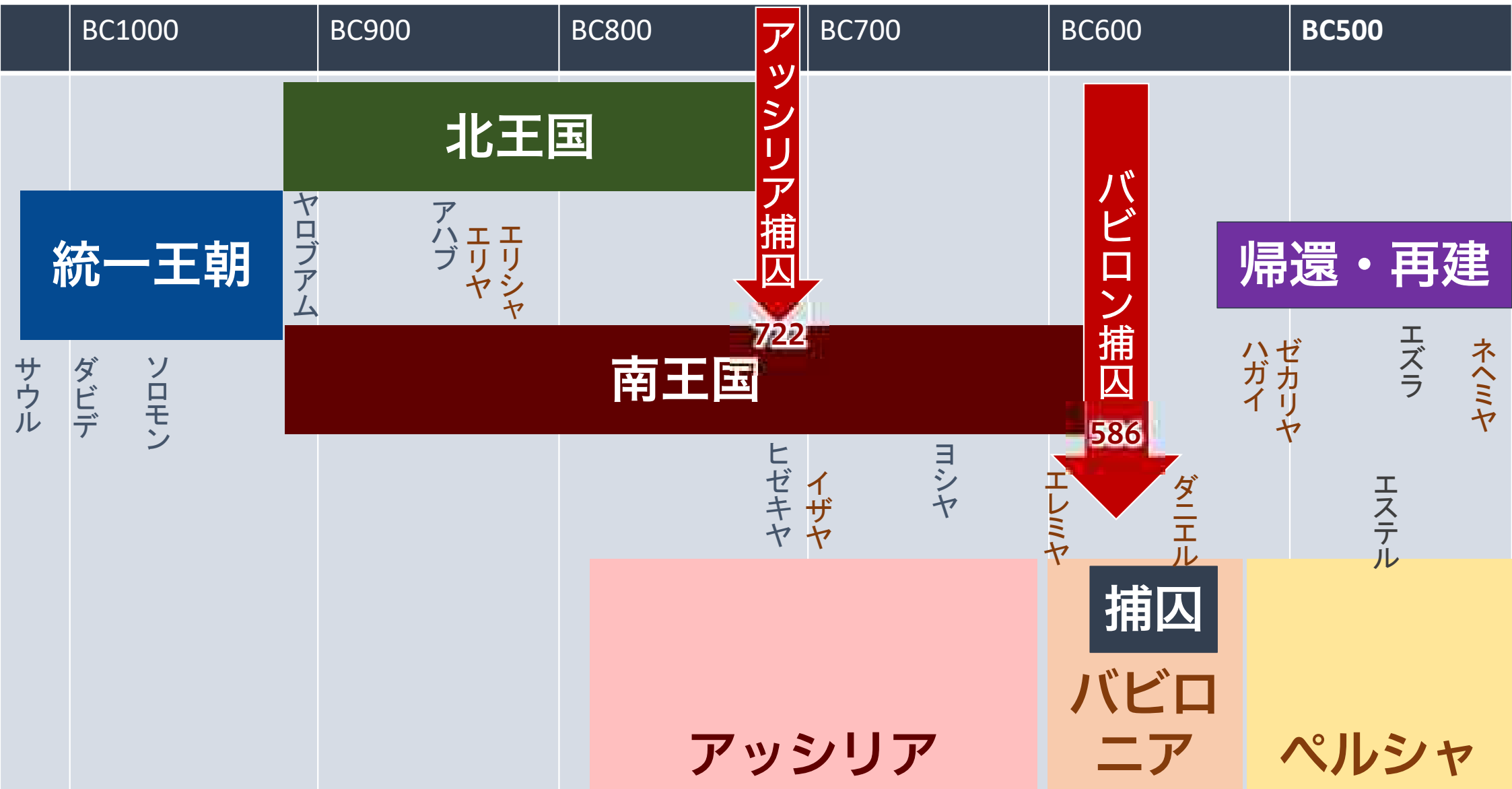
【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

# イスラエル王国史





アケメネス朝  
ペルシャ

エジプト

エルサレム

ニネベ

バビロン

## エズラ記の構成

1～6章	神殿の再建	1章	キュロス王の布告	
		2章	帰還民の部族リスト・再建の開始	
		3章	神殿建設・礎の敷設	
		4章	妨害(15年間停止)	←
		5章	工事の再開	←
		6章	神殿の完成・奉獻	←
7～10章	信仰の再建	7章	<b>エズラ</b> の帰還	
		8章	レビ人と祭司の再編	
		9章	異邦人との雑婚問題	
		10章	悔い改めと聖別	

## 年代表 捕囚後の時代

年代	イスラエル	ペルシャ
前538年	約5万人が帰還 ゼルバベル	バビロン陥落 キュロス王の布告
前520年	ハガイ・ゼカリヤの帰還	ダレイオス王 第2年
前515年	神殿の完成	
前476年	マラキ?!	エステルがペルシャの王女に クセルクス王
前458年	エズラのエルサレム到着 律法の確認・霊的覚醒	アルタクセルクス1世
前444年	ネヘミヤが帰還・城壁再建	エズラ記は、 捕囚後の歴史を網羅

ゼカリヤ書

エズラ記



# Ⅰ. エルサレム復興・妨害の歴史

エズラ記4章

サマリア



## エズラ記4章 エルサレム復興・歴代の妨害

年代	イスラエル	ペルシャ
前538年	神殿再建開始 <b>①神殿建設の妨害</b> (4:1～5,24)	キュロス王
前520年	ハガイ・ゼカリヤの帰還	ダレイオス王
前515年	神殿の完成	
前476年	<b>②都の統治の妨害</b> (4:6)	クセルクス王 (エステル王妃)
前458年	エズラのエルサレム到着	アルタクセルクス1世
前444年	ネヘミヤが帰還・城壁再建 <b>③城壁建設の妨害</b> (4:7～23)	

エズラ記

エルサレム復興は  
妨害の歴史

## 4章の構成 エルサレム復興妨害の歴史・総まとめ

4:1～5	<b>①神殿再建の妨害</b> ゼルバベル、ハガイ、ゼカリヤ	前536年頃～前515年頃 クロス王～ダレイオス王
4:6	<b>②エルサレムの統治の妨害</b>	前486年頃～465年頃 クセルクス王 (エステル王妃)
4:7～23	<b>③城壁再建の妨害</b> ネヘミヤ	前460年～444年頃 アルタクセルクセス王
4:24	<b>①神殿再建の妨害</b> ゼルバベル、ハガイ、ゼカリヤ	前536年頃～前515年頃 クロス王～ダレイオス王

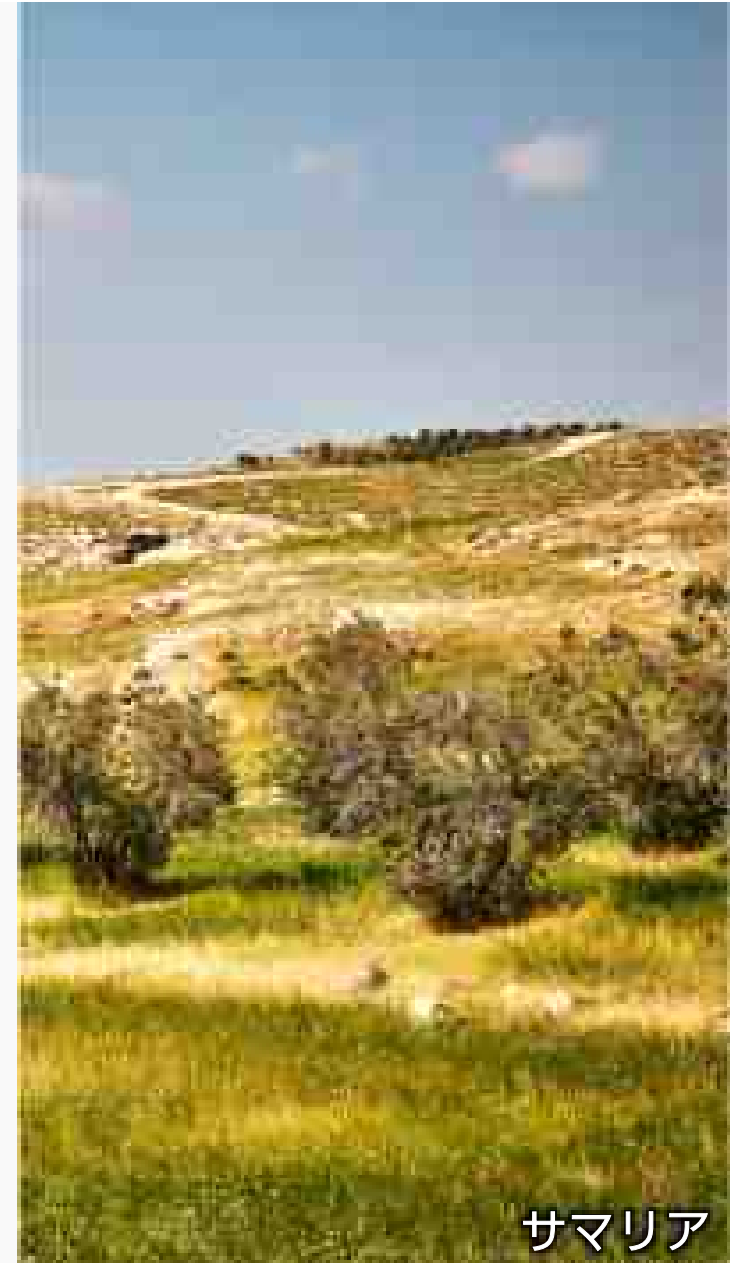
## 妨害①

### ①サマリア人 エズラ4:1

ユダとベニヤミンの敵たち\*は、捕囚から帰って来た人々がイスラエルの神、【主】のために宮を建てていると聞いて、ゼルバベルと一族のかしらたちのところに近づいて来て言った。「私たちも、あなたがたと一緒に建てたい。私たちは、あなたがたと同様、あなたがたの神を求めたいのです。私たちをここに連れて来たアッシリアの王エサル・ハドンの時以来\*、私たちはあなたがたの神に、いけにえを献げてきました。」

\*アッシリアによる強制移住民の子孫

➔北王国の生き残りとの混血が「サマリア人」



サマリア

## 妨害① ①サマリア人 エズラ4:3

しかし、ゼルバベルとヨシュアと、そのほかのイスラエルの一族のかしらたちは彼らに言った。「私たちの神のために宮を建てることは、あなたがたにではなく、私たちに属する事柄です。ペルシアの王キュロス王が私たちに命じたとおり、**私たちだけで、イスラエルの神、【主】のために宮を建てるつもりです。**」

- 重要なのは、主への信仰で一致して宮を立てること。その信仰の本質。



## 妨害① ①サマリア人 エズラ4:4

すると、その地の民はユダの民の気力を失わせようとし、脅して建てさせないようにした。

さらに、顧問を買収して彼らに反対させ、この計画をつぶそうとした。このことはペルシアの王キュロスの時代から、ペルシアの王ダレイオスの治世の時まで\*続いた。

\*妨害による建設の中断は、約15年。

➡キュロス王は死に、王も代替わり



## 4章の構成 エルサレム復興妨害の歴史・総まとめ

4:1～5	<b>①神殿再建の妨害</b> ゼルバベル、ハガイ、ゼカリヤ	前536年頃～前515年頃 クロス王～ダレイオス王
4:6	<b>②エルサレムの統治の妨害</b>	前486年頃～465年頃 クセルクス王 (エステル王妃)
4:7～23	<b>③城壁再建の妨害</b> ネヘミヤ	前460年～444年頃 アルタクセルクセス王
4:24	<b>①神殿再建の妨害</b> ゼルバベル、ハガイ、ゼカリヤ	前536年頃～前515年頃 クロス王～ダレイオス王

## 妨害② ②告訴 エズラ4:6

またクセルクセスの治世\*には、その治世の初めに、彼らはユダとエルサレムの住民を非難する告訴状を書いた。

\* 神殿建築後、エステル記の時代

■ 神殿建築後も、サマリア人による妨害が続いた。

➡ 偽りの告訴状を王に送った!!



サマリア

## 4章の構成 エルサレム復興妨害の歴史・総まとめ

4:1～5	<b>①神殿再建の妨害</b> ゼルバベル、ハガイ、ゼカリヤ	前536年頃～前515年頃 クロス王～ダレイオス王
4:6	<b>②エルサレムの統治の妨害</b>	前486年頃～465年頃 クセルクス王 (エステル王妃)
4:7～23	<b>③城壁再建の妨害</b> ネヘミヤ	前460年～444年頃 アルタクセルクセス王
4:24	<b>①神殿再建の妨害</b> ゼルバベル、ハガイ、ゼカリヤ	前536年頃～前515年頃 クロス王～ダレイオス王



**ネヘミヤ記の予告編!!**



### 妨害③ ③城壁工事の妨害 エズラ4:7~8

また、アルタクセルクセスの時代に、ビシュラム、ミテレダテ、タベエルとほかの同僚たち\*は、ペルシアの王アルタクセルクセスに書き送った。その手紙の文字はアラム語で書かれ、アラム語で述べられていた\*。

参事官レフム、書記官シムシャイはエルサレムに関して、次のような書状をアルタクセルクセス王に書き送った。

\*サマリア人たち

\*エズラ記4:6~6:8までは、アラム語で記載



サマリア

### 妨害③ 城壁工事の妨害 エズラ4:9～11

これは、参事官レフム、書記官シムシャイ、ほかの同僚たち、裁判官、使節、役人、ペルシア人、ウルク人、バビロン人、スサの人々すなわちエラム人、その他、偉大にして高貴なアッシュルバニパルが、**サマリアの町々とユーフラテス川西方のほかの地に引いて行って住まわせた諸民族から\***であった。

彼らが送ったその書状の写しは次のとおりである。

\*またしてもサマリア人からの妨害



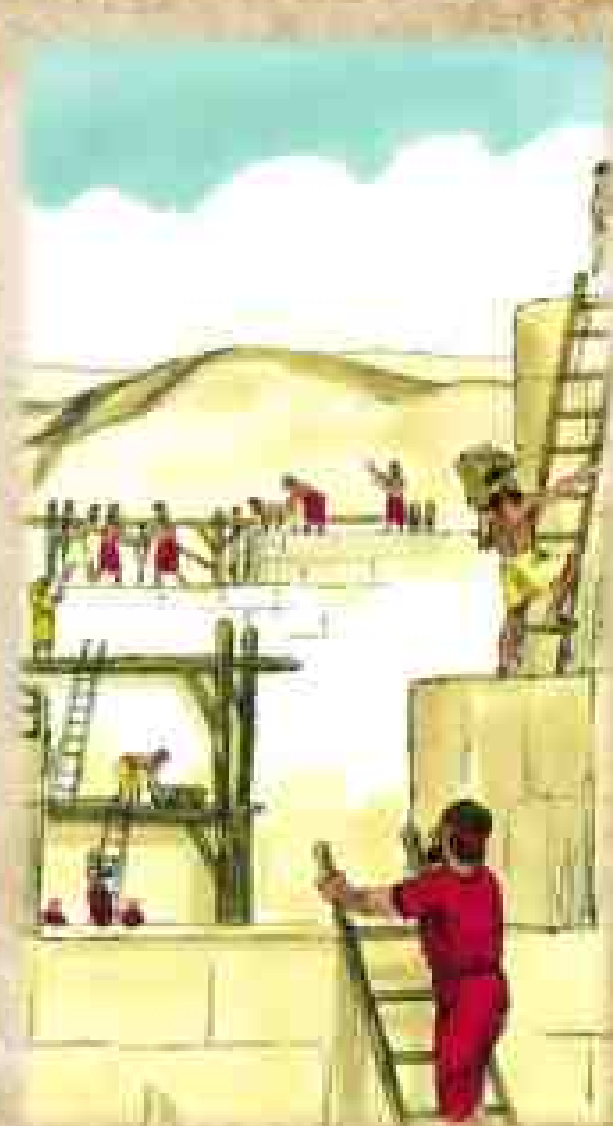
サマリア

## 悪意の訴状

エズラ記4:11～13

「ユーフラテス川西方の者、あなた様のしもべどもから、アルタクセルクセス王へ。さて、王にお知らせいたします。あなた様のところから、私どものところに上って来たユダヤ人たちはエルサレムに着き、あの反抗的で悪しき町を再建しております。その城壁を修復し、その礎もすでに据えられています。

今、王にお知らせいたします。もしこの町が再建され、城壁が修復されたら、彼らは貢ぎ物、関税、税金を納めなくなり、王家に間違いなく損害を与えることになるでしょう。

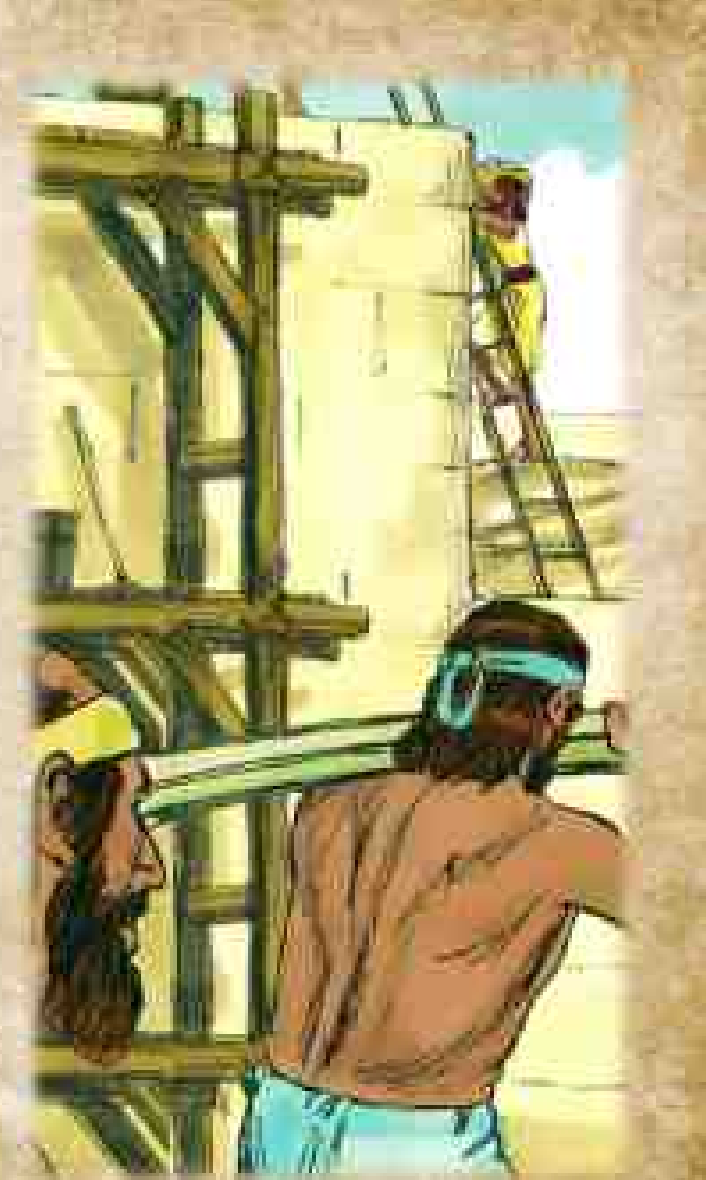


## 悪意の訴状

エズラ記4:14～15

さて、私どもは王宮の塩を賜る(王に恵みを受けている)者ですから、王に対する侮辱を見るわけにはいきません。それゆえ、私どもは人を遣わして、王にお知らせするのです。

あなた様の先祖の記録文書を調べていただきたいのです。そうすれば、この町が反抗的な町で、王たちと諸州に損害を与えてきたこと、また昔からこの町で反乱が繰り返されたことを、その記録文書の中に見て、理解していただけるでしょう。この町が滅ぼされたのも、そのためです。



## 悪意の訴状

エズラ記4:16

私たちは王にお知らせします。もしこの町が再建され、城壁が修復されたら、あなたはこのためにユーフラテス川西方の権益を失ってしまわれるでしょう。」

**イスラエルは反乱分子だと  
エルサレム再建を妨害!!**



## 妨害③ 王の返答 エズラ4:17

王は参事官レフム、書記官シムシャイ、およびサマリアとユーフラテス川西方のほかの地に住んでいる彼らの同僚たちに返事を送った。

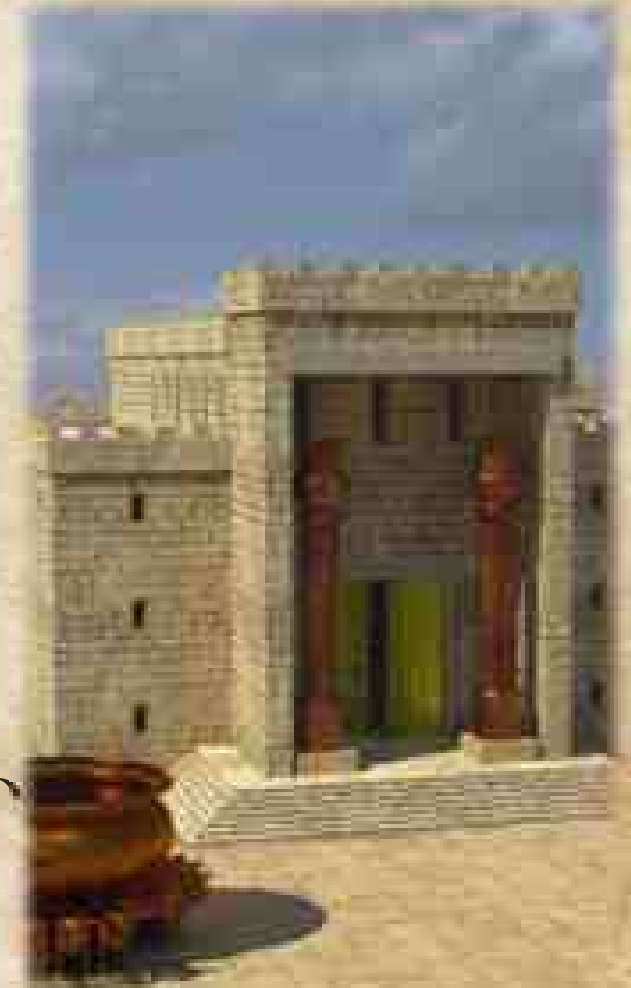


復元されたペルシアの都ペルセポリスの城壁

# 王の返答

エズラ記4:17～20

「平安があるように。さて、  
あなたがたが私たちのところに送ってよこしたあの手紙は、私の前で説明されて読まれた。  
私は命令を下し、調べさせたところ、その町は昔から王たちに対して謀反を企て、その町で反逆と反乱が行われたことが分かった。  
またエルサレムにはかつて勢力のある王たちがいて、ユーフラテス川西方の地を全部支配し、貢ぎ物、関税、税金が彼らに納められていたことも分かった。」



ソロモンの神殿

## 王の返答

エズラ記4:21～22

今あなたがたは命令を下して、その者たちの工事をやめさせ、私から再び命令が下るまで、この町が再建されないようにせよ。

あなたがたはよく気をつけ、このことを怠ってはならない。損害が増して王の不利益となるといけないから。」

**ペルシャ王が  
建設中止を命令!!**

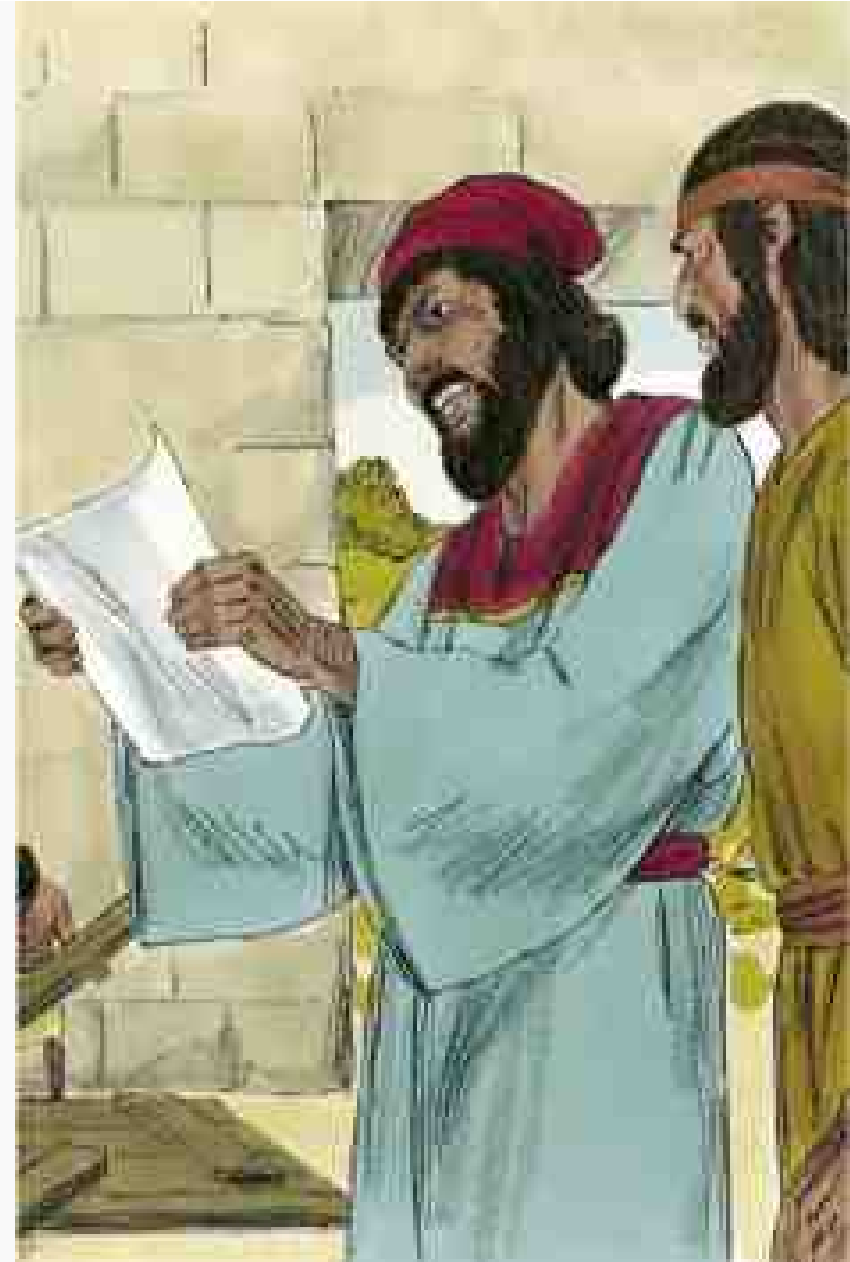




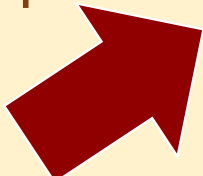
### 妨害③ 城壁工事の中断 エズラ4:23

さて、アルタクセルクセス王の手紙の写しがレフムと、書記官シムシャイと、その同僚たちの前で読まれると、彼らは急いでエルサレムのユダヤ人のところに行き、実力をもって彼らの工事をやめさせた。

■ 妨害された城壁工事が再開されるのは、ネヘミヤの登場から!!



## 4章の構成 エルサレムへの妨害の歴史・総まとめ

4:1～5	<b>①神殿再建の妨害</b> ゼルバベル、ハガイ、ゼカリヤ	前536年頃～前515年頃 クロス王～ダレイオス王
4:6	<b>②エルサレムの統治の妨害</b>	前486年頃～465年頃 クセルクス王 (エステル王妃)
4:7～23	<b>③城壁再建の妨害</b> ネヘミヤ	前460年～444年頃 アルタクセルクセス王
4:24 	<b>①神殿再建の妨害</b> ゼルバベル、ハガイ、ゼカリヤ	前536年頃～前515年頃 クロス王～ダレイオス王

## 妨害① 神殿建築の中止 エズラ4:24

こうして\*、エルサレムにある神の宮の工事は中止され、ペルシアの王ダレイオスの治世の第二年まで中止されたままになった。

\*4章5節の続き。神殿建築中止の経緯

- まず、**①**神殿建築の妨害があり、
- ②**建築後も誹謗中傷は続き
- ③**城壁の再建まで妨害は続いた。

**神殿建築は約15年中断!!**





## II. 二人の預言者

エズラ記5章

サマリアの都の遺跡

## 預言者 建築の再開 エズラ5:1~2

さて、預言者**ハガイ**とイドの子**ゼカリヤ**という二人の預言者は、ユダとエルサレムにいるユダヤ人に対して、自分たちの上におられるイスラエルの神の御名によって預言した。

そこでシェアルティエルの子**ゼルバベル**と、エホツァダクの子**ヨシュア**は立ち上がり、エルサレムにある神の宮を建て始めた。神の預言者たちが一緒にいて、彼らを助けた。

■ 預言者が約束の地に登場するのは捕囚以来

**信仰者を励ますのは、主の御言葉!!**



ハガイ  
預言者



ゼカリヤ  
預言者



ゼルバベル  
指導者



ヨシュア  
大祭司

## ハガイ・ゼカリアの預言を受けて悔い改めたイスラエル

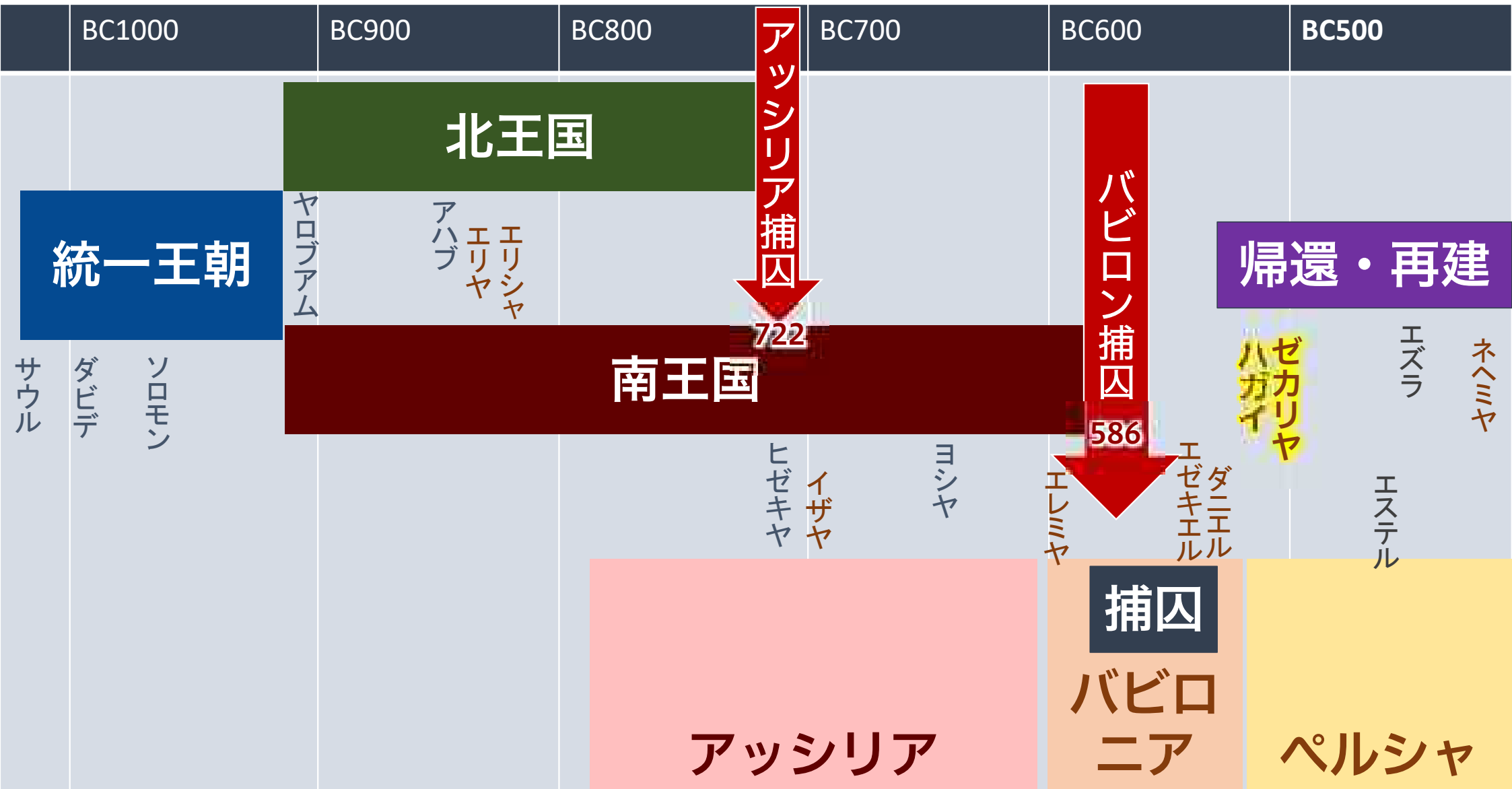
### ■ハガイ書1:13～14

【主】の使者ハガイは【主】の使命を受けて、民にこう言った。

「わたしは、あなたがたとともにいる——【主】のことば。」

【主】が、シェアルティエルの子、ユダの総督ゼルバベルの霊と、エホツァダクの子、大祭司ヨシュアの霊と、民の残りの者すべての霊を奮い立たせたので、彼らは自分たちの神、万軍の【主】の宮に行き、仕事に取りかかった。

# イスラエル王国史の中でのハガイとゼカリヤ



# 年代表 捕囚後の時代におけるハガイとゼカリヤ

年代	イスラエル	ペルシャ
前538年	約5万人が帰還 ゼルバベル	バビロン陥落 キュロス王の布告
前520年	<b>ハガイ</b> ・ゼカリヤの帰還	ダレイオス王 第2年
前515年	神殿の完成	
前476年	<b>マラキ?!</b>	<b>エステル</b> がペルシャの王女に クセルクス王
前458年	<b>エズラ</b> のエルサレム到着 律法の確認・霊的覚醒	アルタクセルクス1世
前444年	<b>ネヘミヤ</b> が帰還・城壁再建	

ゼカリヤ書

エズラ記



## 預言者 訪問者 エズラ5:3～4

そのような時期に、ユーフラテス川西方の総督タテナイと、シェタル・ボゼナイと、その同僚たちが彼らのところにやって来て、こう言った。「この宮を建て、この城壁を修復せよ\*との命令をだれがあなたがたに下したのか。」

そしてまた、「この建物を建てている者たちの名は何というのか」と尋ねた。

\*城壁の修復も並行して進めていた?!

■ この地を治めるペルシアの総督が訪問



## 預言者 主の守りの内に エズラ5:5~7

しかし、ユダヤ人の長老たちの上には彼らの神の目が注がれていたもので、このことがダレイオスに報告されて、さらにこのことについての返事の手紙が来るまで、彼らの工事を中止させることができなかった。

ユーフラテス川西方の総督タテナイと、シエタル・ボゼナイと、その同僚のユーフラテス川西方にいる知事たちが、ダレイオス王に送った書状の写しは次のとおりである。

彼らが王に送った報告には次のように書かれていた。

**主に守られて、今回は中断されず!!**

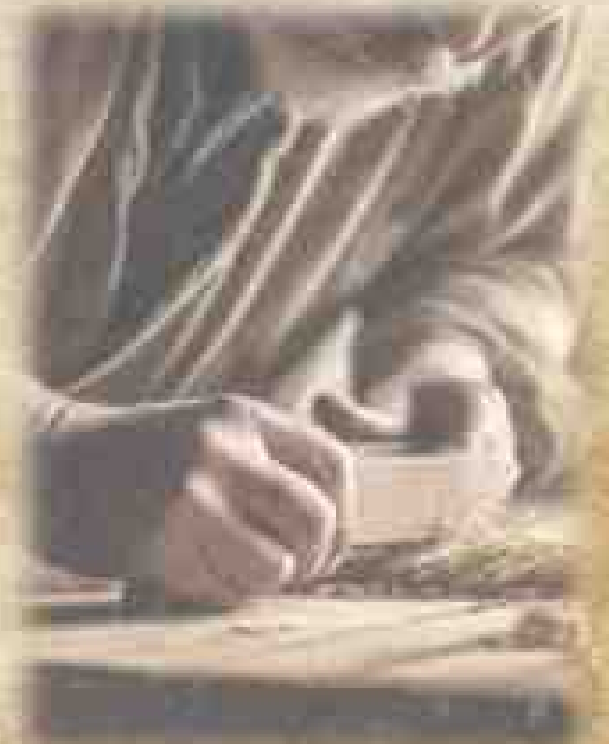


## 王への報告書

エズラ記5:7～9

「ダレイオス王に全き平安がありますように。  
王にお知らせいたします。

私たちはユダ州に行き、あの大いなる神の宮  
に行ってみましたが、それは大きな石で建て  
られていて、壁には木材が組みまれていました。  
その工事は彼らの手で着々と進められ、順調  
に行われています。



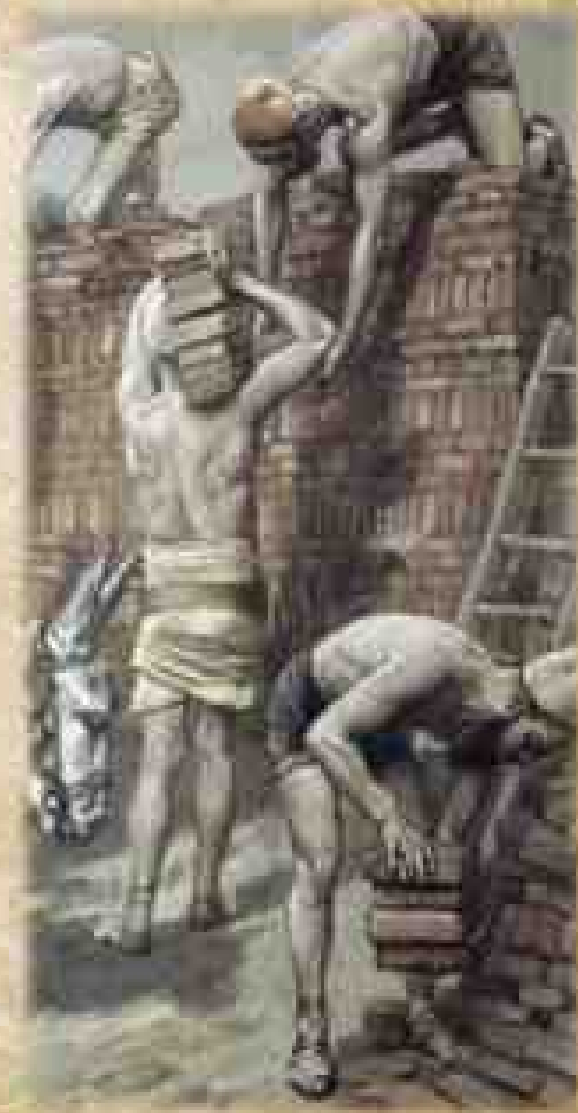
# 王への報告書

## エズラ記

そこで、私たちはその長老たちに尋ねて、彼らに次のように言いました。

『この宮を建て、この城壁を修復せよとの命令をだれがあなたがたに下したのか。』

私たちはまた、あなたにお知らせするために彼らにその名を尋ねました。それは、彼らの先頭に立っている者の名を書き記すためでした。



## 王への報告書

エズラ記5:11～12

すると、彼らは次のように私たちに返事をしました。

『私たちこそは天と地の神のしもべであり、ずっと昔から建っていた宮を建て直しているのです。それはイスラエルの大王が建てて、完成させたものです。』

しかし、私たちの先祖が天の神を怒らせたので、神は彼らを、カルデア人であるバビロンの王ネブカドネツアルの手に渡されました。彼はこの宮を破壊し、民を捕らえてバビロンに移したのです。



## 王への報告書

エズラ記5:13～14

しかし、バビロン(を征服したペルシャ)の王キュロスの第一年に、キュロス王はこの神の宮を建て直すよう命令を下しました。

キュロス王はまた、ネブカドネツアルがエルサレムの神殿から持ち出して、バビロンの神殿に運んで行った神の宮の金や銀の器を、バビロンの神殿から取り出し、自分が総督に任命したシェシュバツアルという名の者にそれを渡しました。



## 王への報告書

エズラ記5:15～16

そして、シェシュバツアルに、これらの器を携えて行ってエルサレムの神殿に納め、神の宮を元の場所に建て直せと言いました。

そこで、このシェシュバツアルは来て、エルサレムの神の宮の礎を据えました。その時から今に至るまで建築が続いていますが、まだ完成していません。』

サマリア人の妨害とは異なる  
中立で客観的な報告

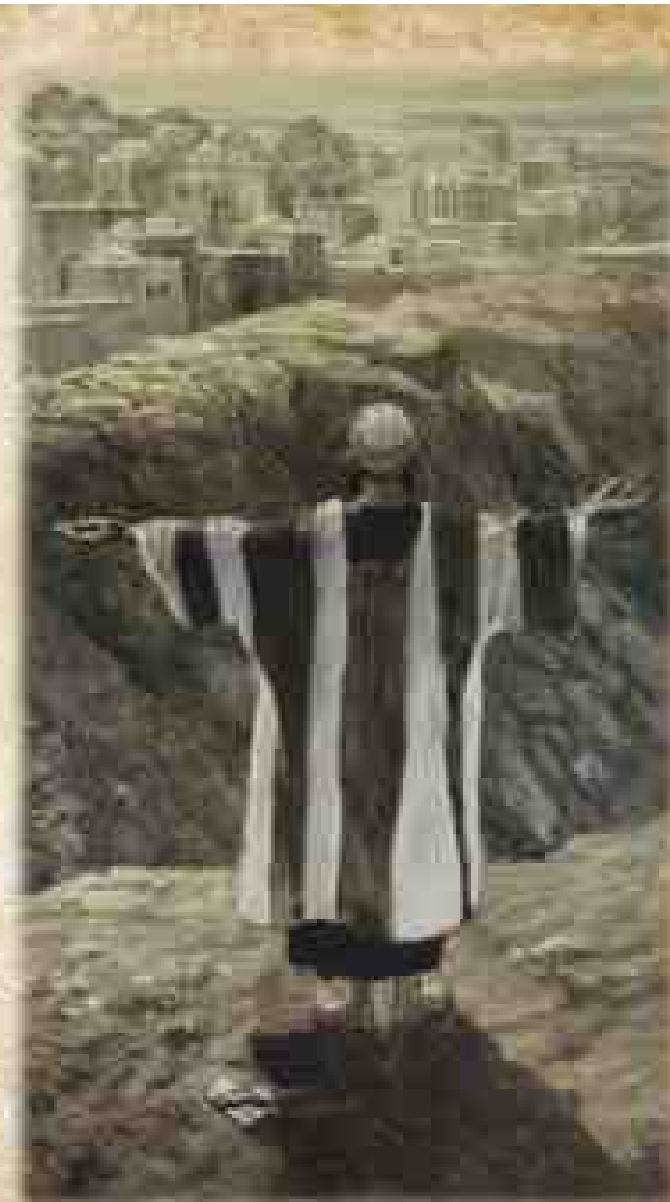


## 王への報告書

エズラ記5:17

ですから、王様、もしもよろしければ、エルサレムにあるこの神の宮を建てるために、キュロス王からの命令が下ったのが事実かどうか、あのバビロンにある王室書庫をお調べください。そして、このことについての王のご判断を私たちにお伝えください。」

**背後にあるのは神の守り**







### III. 神殿建設の再開と完成

エズラ記6章

くさび形文字の粘土板

## 記録文書 王の調査 エズラ6:1～2

それでダレイオス王は命令を下し、重要文書を納めてあるバビロンの文書保管所を調べさせたところ、

メディア州の城の中のエクバタナで一つの巻物\*が見つかった。その中に次のように書かれていた。

\*書物。ペルシャでは陶板がメイン。



# 王の命令の記録

エズラ記6:2～5

「記録。

キュロス王の第一年にキュロス王は命令を下した。エルサレムにある神の宮、いけにえが献げられる宮を建て、その礎を定めよ。

宮の高さは六十キュビト(約26m)、その幅も六十キュビト。

大きな石の層は三段。木材の層は一段とする。その費用は王家から支払われる。

また、ネブカドネツアルがエルサレムの神殿から持ち出して、バビロンに運んで来た神の宮の金や銀の器は返し、エルサレムの神殿に運んで元の場所に戻す。こうして、それらを神の宮に納める。」

発見されたキュロス王の記録に基づき、ダレイオス王は命令した。



ペルシアの遺跡

# 王の命令書

エズラ記6～8

それゆえ、今、ユーフラテス川西方の総督タテナイと、シェタル・ボゼナイと、その同僚たちでユーフラテス川西方の地にいる知事たちよ。そこから遠ざかれ。

この神の宮の工事をそのままやらせておけ。ユダヤ人の総督とユダヤ人の長老たちに、この神の宮を元の場所に建てさせよ。

私は、さらに、この神の宮を建てるために、あなたがたがこれらユダヤ人の長老たちにどうすべきか、命令を下す。王の収益としてのユーフラテス川西方の地の貢ぎ物の中から\*、その費用を間違いなくそれらの者たちに支払って、滞らぬようにせよ。

\* ペルシアの公費から神殿建設費用が捻出!!

# 王の命令書

エズラ記6:9～10

また、その必要とする物、すなわち、天の神に献げる全焼のささげ物のための雄牛、雄羊、子羊、また小麦、塩、ぶどう酒、油を、エルサレムにいる祭司たちの求めに応じて、**毎日怠りなく彼らに与えよ\***。

こうして彼らが天の神に芳ばしい香りを献げ、王と王子たちの長寿を祈るようにせよ。

**\*礼拝の献げ物まで公費から!!**

**➡ペルシア王のためにも祈らせた**



# 王の命令書

エズラ記6:11～12

私は命令を下す。だれであれ、この法令を犯す者があれば、その家から梁を引き抜き、その者をその上にはりつけにしなければならない。このことのゆえに、その家はごみの山としなければならない。

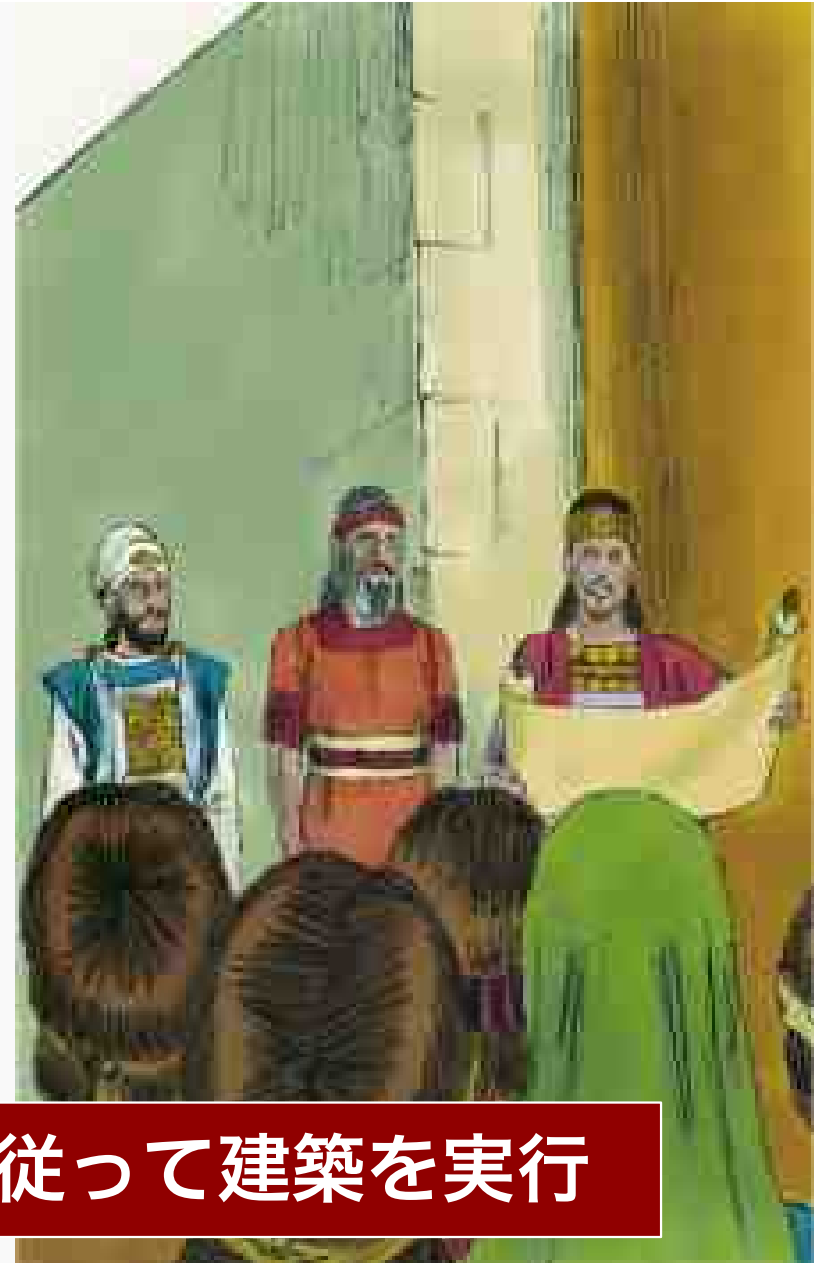
エルサレムに御名を住まわせられた神が、この命令を変更してエルサレムにあるこの神の宮を破壊しようと手を下す王や民をみな、投げ倒されますように。私ダレイオスはここに命令を下す。間違いなくこれを守れ。」



## 神殿完成 権威の下で エズラ6:13~14

ダレイオス王がこう書き送ったので、ユーフラテス川西方の総督タテナイと、シェタル・ボゼナイと、その同僚たちは、間違いなくこれを行った。

ユダヤ人の長老たちは、預言者ハガイとイドの子ゼカリヤの預言を通し、建築を行って成功した。彼らはイスラエルの神の命令により、またキュロスとダレイオスと、ペルシアの王アルタクセルクセスの命令によって、建築を終えた。



**第一に神の権威に、第二に世の権威に従って建築を実行**



## 神殿完成

## 神殿の完成 エズラ6:15～16

こうして、この宮はダレイオス王の治世の第六年、アダルの月の三日\*に完成した。

イスラエルの子ら、すなわち、祭司、レビ人、そのほかの捕囚から帰って来た人たちは、喜びをもってこの神の宮の奉獻式を祝った。

\*前515年。着工から21年後。

➡神殿の破壊(前586年)から70年後。



## 神殿完成 奉献式 エズラ6:17~18

彼らはこの神の宮の奉献式のために、雄牛百頭、雄羊二百匹、子羊四百匹を献げた。また、イスラエルの部族の数にしたがって、全イスラエルのために罪のきよめのささげ物として、雄やぎ十二匹を献げた。

また彼らは、エルサレムでの神への奉仕のため、祭司をその区分にしたがって、レビ人をその組にしたがってそれぞれ任命した。モーセの書に記されているとおりである。

■ 奉仕者も、律法の命令通り、組織された。



## 神殿完成 過越祭 エズラ6:19～20

捕囚から帰って来た人々は、第一の月の十四日に**過越**を祝った。

祭司とレビ人たちは一人残らず身をきよめて、みなきよくなっていたので、捕囚から帰って来たすべての人々のため、彼らの同胞の祭司たちのため、また彼ら自身のために、**過越のいけにえ\***を屠った。

■ 民族誕生・出エジプトを記念する**過越祭**

➔ 究極的には、**メシアの贖い\***を象徴



## 神殿完成 除酵祭 エズラ6:21～22

捕囚から戻って来たイスラエル人はこれを食べた。イスラエルの神、【主】を求めて、その地の異邦の民の汚れから離れて彼らに加わった者たち\*もみなそうした。

\*北の十部族の残れる者も工事に参加



## 神殿完成 除酵祭 エズラ6:22

そして彼らは七日間、喜びをもって種なしパンの祭り\*を守った。これは、【主】が彼らを喜ばせ、またアッシリアの王の心を彼らに向けて、イスラエルの神である神の宮の工事にあたって、彼らを力づけるようにされたからである。

\*過越祭に続く七日間

➔種なしパンが象徴するのは、  
罪なきメシアによる贖いと復活





#### IV. まとめと適用

私たちの信仰生活の礎を確認しよう

ペルシア・ペルセポリス

## エルサレム復興は、妨害の歴史

- 神殿建設の開始から完成まで約20年、城壁の完成までには90年以上。
  - ➔ エルサレムの復興は、妨害され続けた歴史
- 妨害の主体は常に、サマリア人
  - ➔ 異邦の移住民と、北王国の生き残りの混血
  - ➔ 宗教的にも、ユダヤ教と異教の混合宗教に!!
- ルーツを同じくする同胞・身内が、最も激しく妨害!!
  - ➔ エルサレムの帰還民の信仰も停滞

**一番の課題は常に、内なる信仰!!**

## 守られ続けた帰還民の信仰

- 敵の妨害と、建設の中断、信仰の後退…。
  - ➔ それでも主が背後で、エルサレムの帰還民を支え続けた。
- 都に派遣された捕囚以来の預言者、ハガイとザカリヤ
  - ➔ 神は、民を見捨てておられないと、明らかにされた。
- 捕囚の期間も捕囚後も、主が、イスラエルを守り続けた。
  - ➔ アブラハム以来の一方向的な約束の恵みのゆえに  
「わたしは、あなたがたとともにいる。ハガイ1:13」

**約束の主の御言葉が、イスラエルを奮い立たせた**



## 靈的戦いの土台

- 地域教会での靈的戦いも、内側にこそ、最も激しい妨害がある。  
例) 教会開拓でのよくある話。
- 帰還民の前に立ちはだかったのは、ルーツを同じくするサマリア人  
→ 教理から逸脱した信仰者が、最も厳しい敵対者に!!
- 激しい妨害の中で、長く厳しい停滞を経験させられる時もある。  
→ それでもなお、主に支えられているからこそ、保たれている
- 常に立ち続け、いつでも立ち返るべきは、主の御言葉

**御言葉によって、戒めと励ましを受け取り続けよう!!**

## 保たれ続けた神殿の土台

■ 神殿の礎が築かれた時に、  
みすぼらしさに泣き叫んだ長老たち。

■ この土台は、後の時代まで保たれ続け、  
今も据えられている。



再建された神殿



ヘロデ大王の大拡張工事

**最も重要な神の約束の御言葉は  
今も揺るぎなく据えられている**

## ★ 私たちの信仰生活の礎を確認しよう★

■ 地域教会も個々人の歩みも、激しい妨害で停滞する時がある。  
イスラエルの約束されたメシア、主イエスの言葉を肝に据えよう。

わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。

父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。

マタイ28:18~20

主の約束の御言葉を礎に、主の弟子としての使命に遣わされよう

てん とう つみ  
「天のお父さま。わたしの罪をゆるしてください

かみ こ  
わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

① わたしの罪を贖うために十字架で死に、

はか ほうむ  
② 墓に葬られ、

みっかめ ふっかつ しん  
③ 三日目に復活したことを信じます。

きかんみん わたし しんこう ていたい とき  
エルサレムの帰還民のように、私の信仰も停滞する時があります。

か しゅ みことば いしづえ かた た  
変わることはない主の御言葉を礎に、堅く立たせてください。

やくそく しゅ とも いまし はげ  
約束の主イエスが、共におられ、戒め、励ましてくださいます。

へいあん あた しめい わたし つか もち  
平安をもって、与えられた使命に、私を遣わし、用いてください。

しゅ な いの  
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」